

2022年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	東海大学医学部看護学科	助成金額	500,000 円
氏名	友滝 愛		
研究や活動等のテーマ（申請書に記入した内容を記入すること。）			
<p>【テーマ】在宅で療養されている方や家族を地域で支える専門職に求められていることをみんなで可視化するための基盤構築プロジェクト：ヘルスケアデータ・コ・ラボ</p> <p>【活動の概要と意義】当活動の概要は、在宅療養されている方や家族が専門職（看護師、助産師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など）に求めているケア（以下、在宅ケア）の実際について、訪問看護ステーションで蓄積されている電子的データを用いて可視化するための基盤を構築することである。この基盤の構築には、次の3つが含まれる。</p> <p>① 電子カルテのサーバに格納されている情報を、分析可能なデータに変換するためのフレームワークを整備する</p> <p>② 在宅ケア分野で蓄積されるデータのデータ収集パターンを分析する</p> <p>③ 在宅ケアを可視化するダッシュボード機能に搭載するデータセットを標準化し、電子カルテの画面に実装する</p> <p>この①～③を、訪問看護ステーションの実データを用いてモデルケースとして実施し、他の訪問看護ステーションでも展開できるようノウハウを体系化し、公開することを目指す。</p>			
助成金の使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）			
<p>申請時の計画は、前述の①②に該当する部分で、本研究の骨子であり土台となるデータセット抽出のため、電子カルテの設計者・システムエンジニア、大学研究者で定期的にオンラインミーティングを重ね、計画に則り「データ定義書の作成」「サンプルデータの抽出」「データの結合」を行った。複数のデータを結合するためのキーとなる変数の特定と実際のデータ結合、さらに、集計が可能か一通り検証した結果、データ抽出に当たり改善を要する点が発見された。そのため、現在、電子カルテベンダーとプロジェクトメンバーで共同して、電子カルテからデータを抽出するプログラムや、研究チームで受け取るデータとプロセスの見直しを行っている。並行して、データを用いて臨床的・学術的に価値のある臨床的可視化のために、どのような分析を行い、論文を投稿するのか検討した。また、個人情報保護法や研究に関する倫理指針、訪問看護ステーション利用者の同意取得の方法について検討を重ね、さらに、本プロジェクトの性質を鑑み、産学連携共同研究契約の締結に向けた準備を行った。以上をふまえて、研究計画書を作成し、研究倫理審査委員会にて研究の実施について承認を得て、前述のデータ抽出を実データに対して行っている最中である。研究に関する情報公開は、以下の通りである。</p> <p>この一連のプロセスは、訪問看護ステーションのデータを利用して現場で行われていることを可視化するための「基盤構築」にあたるものであり、ノウハウとしてウェブサイト公開することを計画していたが、先行して、雑誌にて記事を投稿することとなった。看護系の専門誌にて特集「日々の医療情報を研究に活かすーデータの2次利用に向けて」が組まれることとなり、2023年8月号にて掲載予定である。</p> <p>【情報公開】研究開始に伴う情報公開文書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東海大学 https://irb-med-tokai.com/wp-content/uploads/2023/03/22R263.pdf ・ウィル訪問看護ステーション https://wyl.co.jp/wp/wp-content/themes/wl/pdf/wyl_disclosure230624.pdf <p>研究に関する登録（臨床試験登録：UMIN 試験 ID UMIN000051554） https://center6.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr_view.cgi?recptno=R000058247</p>			
助成金の使用金額及び使途			
<p>・支出内訳：①書籍の購入：9,645 円 ②Slack 年間契約：78,870 円 ③謝金（研究サポート業務）：15,330 円</p> <p>・残額：396,155 円</p> <p>使用に関する変更と今後の支出予定：共同研究契約の締結（～2025年3月末予定）、成果物公表に関する進捗等により、申請時の予算計画から一部変更が生じた。引き続き活動継続中であり、残額は申請時に計画した論文投稿・ノウハウの公開の際の費用、オンライン環境の利用費、謝金に使用させて頂く予定である。</p>			
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。）			
<p>・友滝愛. 特集 日々の医療情報を研究に活かすーデータの2次利用に向けて. 既存データを研究目的で利用するときのロードマップを描こう！看護研究. 2023. (印刷中)</p> <p>・岩本大希. 特集 日々の医療情報を研究に活かすーデータの2次利用に向けて. データの2次利用とアカデミアとの連携. 看護研究. 2023. (印刷中)</p> <p>上記の他、同特集にて、当プロジェクトメンバーの森岡典子、横田慎一郎、中谷英仁も寄稿。</p>			